

2024年度 ANNUAL REPORT



公益社団法人 日本フィランソロピー協会（JPA）

目次

2024 年度アニュアルレポート発行にあたって	3
私たちが目指すこと	4
公益社団法人日本フィランソロピー協会（JPA）の歩み	6
▶研修事業	
定例セミナー	8
業界別勉強会	9
ビジネスと人権エグゼクティブセミナー	10
▶顕彰事業	
第 22 回企業フィランソロピー大賞	12
▶出版事業	
機関誌『フィランソロピー』	13
▶地域連携事業	
農福連携による共生社会創造事業	14
▶企業の CSR 支援事業	
従業員のボランティア・マッチングプログラム	
(1) ボランティア・マッチングサイト「ボランティアウェブ」	16
(2) 個別企業向けボランティアのコーディネート	18
従業員等の寄付マッチングプログラム「フィランソロピーバンク」	
(1) 非営利団体への寄付	19
(2) 個人の寄付推進事業	21
(3) 奨学金プログラム（個人向け）	21
個別企業の社会貢献推進	
(1) 社会貢献活動支援	22
(2) 被災地復興支援	23
(3) 助成事業支援	24
調査・報告	24
▶個人のフィランソロピー推進	
誕生日寄付	25
フィランソロピー名刺	26
▶次世代育成事業	
久里浜少年院 社会貢献活動「花育」	26
企業の次世代育成事業データベース	26
資料編	
寄付先団体・個人（2024 年度実績）	27
企業から NPO への物品寄贈「あげます・もらいます」	28
財務データ／会員数／役員	29

2024年度アニュアルレポート発行にあたって

当協会は、健全な民主主義社会を目指すことをミッションとして活動しています。しかし、残念ながら、世の中を眺めると、それが脅かされる状況が世界各地で起こっています。本来、民主主義社会は、立場や考えが違って、お互いの立場や意見に耳を傾けつつ、よりよい社会創造のために共に考え、議論し、自然環境・社会環境の向上、次世代の人たちの幸せのために共に働くことが前提にあるものです。フィランソロピーは多元主義（pluralism）が核にあるといわれています。多元主義とは、「異なる信念、ライフスタイル、背景を持つ人々が同じ社会で平和的に共存し、統治プロセスに平等に参加できると考える政治哲学」です。それがフィランソロピーの原点であり、混迷を極めるVUCAの時代であるからこそ、そのことを改めて心に刻みたいと思っています。

2024年度は、企業のサステナブル経営に資する社員参加の社会貢献活動を軸に、事業を展開しました。NPO等での単発のボランティア参加だけでなく、NPOの基盤整備のためのボランティアの可能性を探るべく、勉強会や報告会なども開催し、社会貢献事業の質の向上を目指しました。今後は、さらなるメニューの拡充による質の向上と、地方企業・支社への拡がりを目指して企業文化創造に資する活動を心がけてまいります。

ただ、現実には人権をないがしろにした不祥事や事件が後を絶ちません。そこで、企業経営以前に人間として人権についてさまざまな角度から考え、そのうえで、企業として人権の課題に向き合うことが必要ではないか、という考えのもとに、ビジネスと人権エグゼクティブセミナーを開催しました。参加企業の皆様には、真摯に人権に向き合っていただき、対話が深まったことに主催者としても感銘を受けました。2025年度も引き続き開催し、サステナブル経営が名実ともに進化するためのささやかなサポートになれば、と願っております。

休眠預金活用の農福連携事業は3年間の事業ですが、1年目にあたる2024年度は、資金分配団体として、8件の実行団体の課題発掘や解決に向けての研修・先進事例視察などを行ない、就労者や応援団の増強のための土台づくりをしてまいりました。今後は、企業や企業人ボランティアの農福連携事業への参画をより積極的に進め、販路拡大・就労者拡充の両輪で実行団体の発展に役立つ支援をしてまいります。

今後、当協会は企業・NPO・行政等とのより積極的な連携で、各事業に面的な拡がりを持たせ、次世代を担う子どもたちにとっても、愛着と誇りの持てる地域づくりに資する活動へと発展させてまいります。

2024年度はその足掛かりとなる事業を心がけました。その要旨をアニュアルレポートとしてお届けいたします。お目通しいただき、次の展開のためのご意見やご要望などをいただければありがたいと存じます。

引き続き、どうぞよろしくお願い申し上げます。

2025年8月1日

公益社団法人日本フィランソロピー協会（JPA）

理事長 高橋 陽子

私たちが目指すこと

私たちは、性別、年齢、障がいの有無など属性に関係なく、社会を構成する個人が主体的に、生き生きと役割を果たす社会こそが真の民主主義社会であり、“個人フィランソロピー”はその原点であると考えています。

現在、「行政依存型社会」から「市民自立型社会」へ社会システムが大きく変化する過渡期にあります。第1セクター（行政）、第2セクター（企業）に比べて小さな存在であった第3セクター（NPO・NGO）への期待が大きくなっているものの、まだその力は弱く、税収が減少する中、民間企業や市民の果たすべき役割も比重が増えています。

JPAは、企業と従業員はじめステークホルダーなどのフィランソロピー活動の推進を核に、主体となる個人が「より良い社会創造のために自ら考え、助け合いながら、課題解決に向けて行動する」ための取り組みを重視しています。その結果、社会全体で社会参加の機運を高め、誰もが社会の一員として大切にされ、かつ役割を果たすことができる共生社会を目指して尽力します。

Philanthropyの語源：

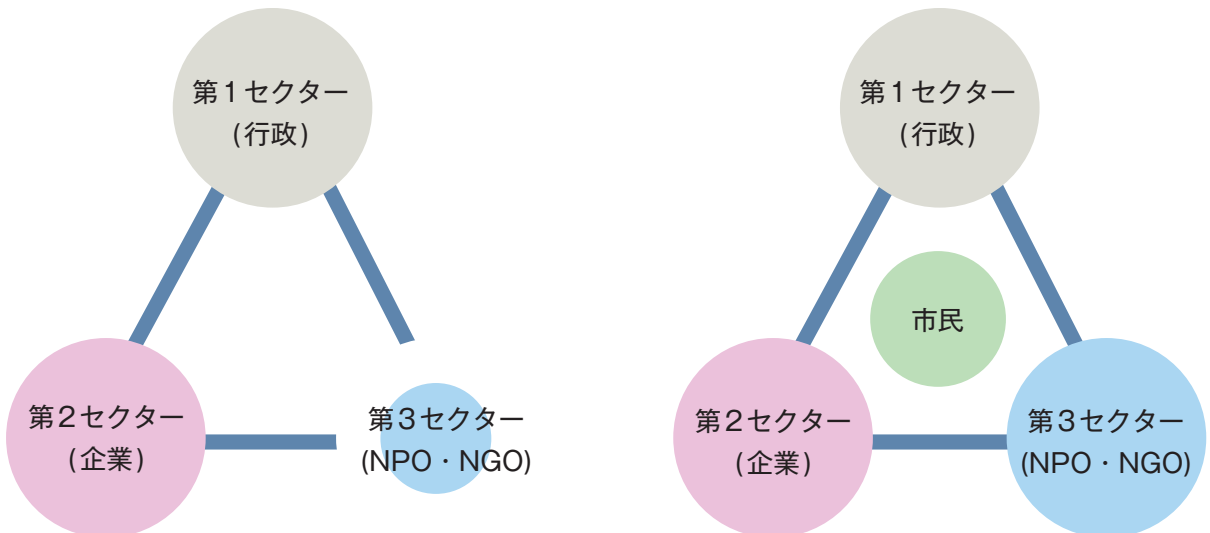
「フィランソロピー」とは、ギリシア語の「フィリア（愛）」と「アンソロポス（人類）」に由来する言葉で、「人類愛」「博愛」を意味します。現在は、人間愛をベースとして、社会課題の解決のために寄付をはじめ、社会貢献をすることを指しています。

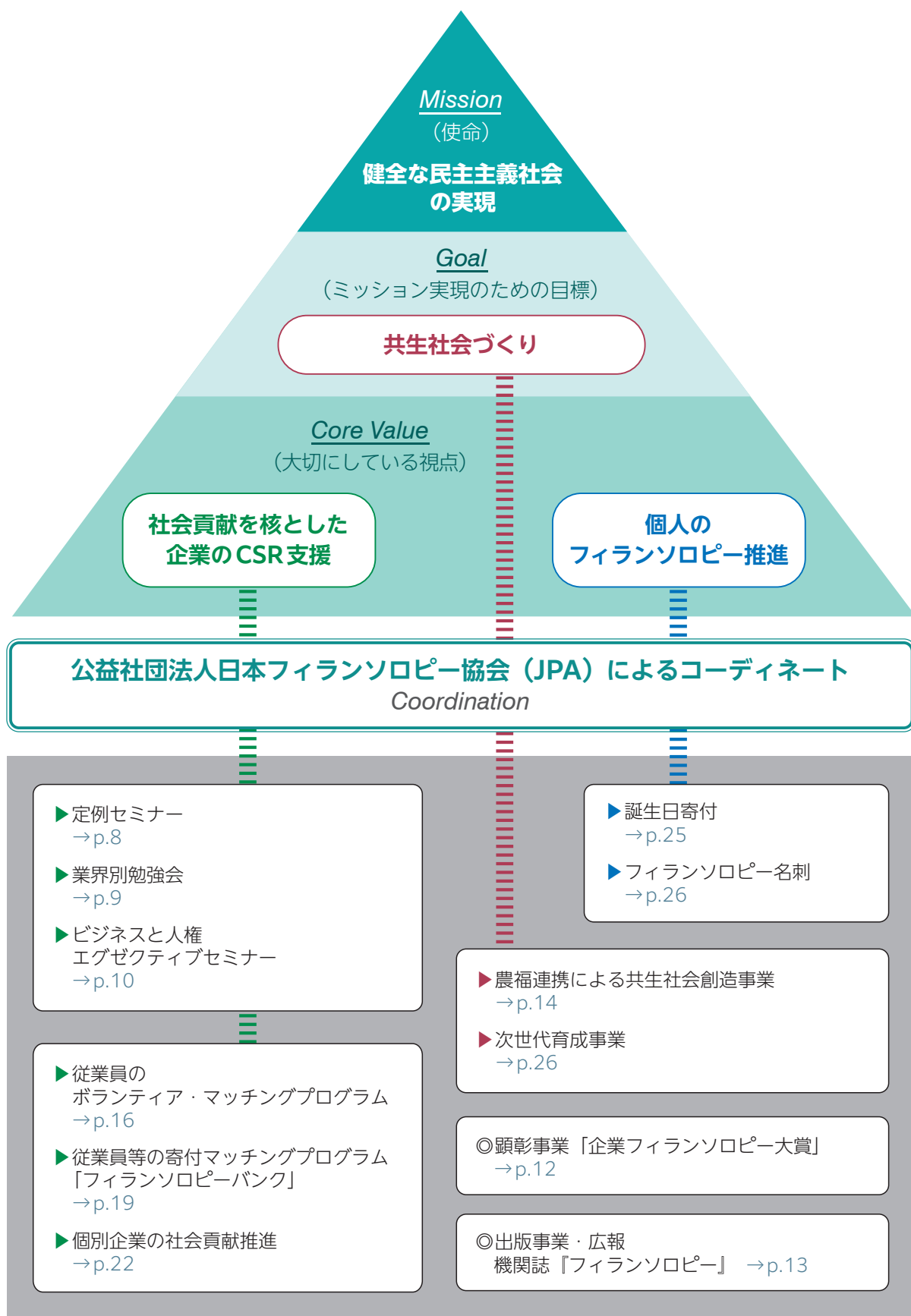
社会システムの変化

行政依存型社会



市民自立型社会





2008年
2007年
2006年
2005年
2004年
2003年
2002年
2001年
2000年
1999年
1998年
1997年
1996年
1995年
1994年
1993年
1992年
1991年
1990年
1963年

■定例セミナー（1999年3月まで「定例研究会」）

■機関誌「フィランソピー」（2012年3月まで『月刊フィランソピー』）

●「アート展・障害のある人による作品たち」開催（主催：文化庁）

●「全国ノーマライゼーション推進高山会議」開催（共催：岐阜県高山市）

■音訳サービス「声の花束」（2018年度）

■障がい者支援オンラインショップ「アニモショップ」運営（2012年度）
■知的障がい者のアートと暮らしを描くドキュメンタリー映画『まひるのほし』制作

■顕彰事業「まちかどのフィランソピスト賞」創設（2017年度）

■阪神・淡路大震災を受けて神戸市立室^{むろ}内^{うち}小学校（長田区）で避難所を運営

■社団法人日本フィランソピー協会に名称変更

■シンポジウム「なぜフィランソピーか」開催

■企業フィランソピー事業を開始

■ジャーナリスト・学者らが中心となり、社団法人国民政治研究会を設立

▲新公益法人制度が施行

▲CSR元年

企業による不祥事の多発と自然環境の悪化により、経済同友会が企業白書でCSRに言及。多くの企業がCSR部門を整備

▲NPO法制定

▲京都議定書採択
気候変動の国際的取り組み

▲阪神・淡路大震災発災、ボランティア元年
多くの一般人が、ボランティアとして復興支援に参加

▲「地球サミット」開催（ブラジル・リオデジャネイロ）
環境と開発をテーマにした国連会議
▲大阪コミュニティ財団設立

▲フィランソピー元年
経団連1%クラブ設立／企業メセナ協議会設立

以降

2024年

2023年

2022年

2021年

2020年

2019年

2018年

2017年

2016年

2015年

2014年

2013年

2012年

2011年

2010年

2009年

フィランソロピー 始動30周年

■顕彰事業「企業フィランソロピー大賞」

■従業員等の寄付マッチング・プログラム「フィランソロピーバンク」

■寄付・募金を核にしたシティズンシップ教育

■従業員のボランティア・マッチングプログラム
「ボランティアウェブ」

■「誕生日寄付」

■企業活動
データベース
「次世代育成」

■ビジネスと人権エグゼクティブセミナー
第一三共「思いをつなぐ」次世代応援プログラム（2024年度）

■農福連携による共生社会創造事業（2026年度）

■業界別勉強会 ■社会課題のリアルを知る勉強会

■「TEAM EXPO 2025」プログラム 共創パートナーに登録

■自治体職員向け研究会（2024年度）

■日本生命「プロボノプロジェクト」コーディネート（2022年度）

■アステラス製薬リーダーシップトレーニング（2021年度）

■フィランソロピー始動30周年記念シンポジウム・フォーラム開催

●ブリヂストン「BSunie募金」（2020年度）

●福島県郡山市委託事業
「農福連携推進モデル構築事業」（2021年度）

●東京ガス「森里海つなぐ」プロジェクト（2017年度）

●TOYOTA TREEグループ環境保護基金（2017年度）

●経営者向け「エグゼクティブセミナー」（2019年度）

●東京海上日動あんしん生命奨学金（2016年度）

●「子どもの貧困を考える勉強会」（2018年度）

■「サントリー東北サンさんプロジェクト」
みらいチャレンジ（2021年度）／シン・みらいチャレンジ（2023年度）／チャレンジド・スポーツ支援事業

■「関西セミナー」開催（2019年度）

●田辺三菱製薬「手のひらパートナープログラム」（2012年度）

■「復興応援キリン絆プロジェクト」（2019年度）

■災害時地域FM放送支援

■シニアのビジネススキルをNPOに橋渡し「NECC匠塾」開催（2016年度）

■NPO支援「アメリカン・エキスプレス・リーダーシップ・アカデミー」（2019年度）

■新公益法人制度のもと、公益社団法人として認定

▲国連人権委員会「ビジネスと人権」
作業部会、訪日調査を実施

▲国連生物多様性条約第15回締結国会議（COP15）
2030年までに地球上の陸域・海域の30%の
保護を目指す「30x30」を盛り込む

▲菅総理所信表明演説で、「2050年までに
脱炭素社会を実現」

▲「Covid-19」の世界的感染拡大

▲「パリ協定」発効

▲2020年以降の温室効果ガス排出削減等のた
めの新たな国際的枠組み

▲国連で「持続可能な開発目標（SDGs）」制定

▲「国連持続可能な開発会議（UO+20）」開催

▲環境・貧困・災害などをテーマにした国連会議。
地球サミットの前ローアップ会議

▲東日本大震災発災

▲ISO26000発行

社会的責任に関する国際規定

研修事業

定例セミナー

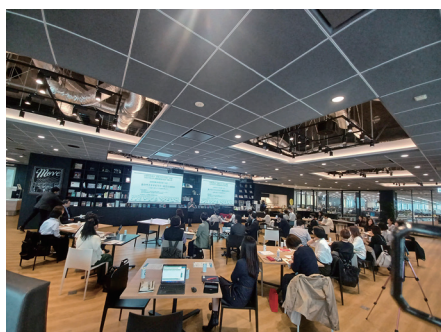
企業のCSR・サステナビリティ推進・社会貢献担当者を対象に、SDGs、災害支援、次世代支援、従業員の社会参画などさまざまなテーマで、先進事例を有する企業担当者や非営利組織運営者、学術研究者などを講師に迎えて開催しました。11月には少年院とワイン醸造所での農福連携事業の視察、3月には特別企画として株式会社矢野経済研究所との共催で、社会貢献とビジネスの新天地をテーマにシンポジウムを行ないました。2024年度は13回開催し、セミナーには延べ330名が参加しました。

<https://www.philanthropy.or.jp/seminar/>

開催日	テーマ／講師	カッコ内は参加人数
第418回 2024年4月23日	サステナビリティ基礎講座2024 第1回 真のサステナビリティ経営とは何か～企業の果たすべき役割を考える～ ＜講師＞ 関 正雄さん 損害保険ジャパン株式会社経営企画部カルチャー変革推進部シニアアドバイザー、放送大学客員教授、社会構想大学院大学客員教授	(38名)
第419回 2024年5月8日	サステナビリティ基礎講座2024 第2回 ESG開示に備える真の社内体制づくり～社会の課題・要請に応える人材・事業を育てるために～ ＜講師＞ 川北 秀人さん IHOE [人と組織と地球のための国際研究所]代表者 (CEO)	(33名)
第420回 2024年5月23日	サステナビリティ基礎講座2024 第3回 企業に求められる「多様性」への対応について～障害者差別解消法改正を機に～ ＜講師＞ 垣内 俊哉さん 株式会社ミライロ 代表取締役社長、一般社団法人日本ユニバーサルマナー協会 代表理事、公益財団法人日本財団パラスポーツサポートセンター 顧問	(32名)
第421回 2024年6月11日	サステナビリティ基礎講座2024 第4回 注目されるネイチャーポジティブ経営とは～地域社会に依拠する生物多様性の意味を考える～ ＜講師＞ 藤田 香さん 東北大学 グリーン未来創造機構 兼 大学院生命科学研究科教授	(33名)
第422回 2024年6月24日	サステナビリティ基礎講座2024 第5回 公正な社会の実現にむけた企業の在り方を考える～「ビジネスと人権」への取り組み、そしてその先へ～ ＜講師＞ 若林 秀樹さん THINK Lobby所長、ビジネスと人権市民社会プラットフォーム 代表幹事、特定非営利活動法人 国際協力 NGO センター (JANIC) 理事	(34名)
第423回 2024年7月24日	企業のCSR・社会貢献としてのマッチングギフトについて～アンケート調査からの考察と導入企業事例に学ぶ～ ＜講師＞ 植木 久美さん 株式会社ブリヂストン日本セグメント社会貢献活動推進課 羽藤 俊昭さん 丸紅株式会社広報部部長 關根 裕子さん 丸紅株式会社広報部 企画・ブランド推進課	(25名)
第424回 2024年9月30日	サステナビリティ経営におけるダイバーシティ雇用を考える ＜講師＞ 村木 太郎さん 一般社団法人ダイバーシティ就労支援機構理事長、社会福祉法人南高愛隣会理事、一般社団法人 若草プロジェクト理事 芝 美和子さん CTCひなり株式会社代表取締役社長 (伊藤忠テクノソリューションズ株式会社の特例子会社)	(24名)
第425回 2024年10月23日	パリ・パラリンピック後のインクルーシブ社会づくりに向けて～当事者・アドバイザーの視点から企業との協働事例を語る～ ＜講師＞ 上原 大祐さん 認定NPO法人D-SHIP32 代表理事、アイススレッジホッケープレーヤー、バンクーバー 2010 パラリンピック銀メダリスト	(16名)
第426回 2024年11月8日	ワイナリー×少年院の農福連携事業視察 ＜講師＞ 樋口 光平さん 茨城農芸学院院长 川口 孝太郎さん 牛久シャトー株式会社代表取締役	(14名)
第427回 2024年12月6日	能登半島の現状と企業の支援事例を知り、これからの災害支援を考える ＜講師＞ 上島 安裕さん 一般社団法人ピースポート災害支援センター 理事／事務局長、特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム 共同代表 須崎 涉さん サントリーホールディングス株式会社CSR推進部課長 五十嵐 哲さん 大日本印刷株式会社コーポレートコミュニケーション本部ブランド戦略室CSRグループ	(16名)

第428回 2025年1月22日	世代を超えた地域の居場所『こども食堂』で叶える次世代育成と地域貢献 <講師> 坂本 純子さん NPO法人新座子育てネットワーク代表理事 竹内 祐子さん NPO法人新座子育てネットワーク事務局長 堀池 俊介さん キューピー株式会社・公益財団法人キューピーみらいたまご財団事務局長 櫻井 絵巨さん SOMPO ケア株式会社地域包括ケア推進部企画課シニアリーダー (20名)
第429回 2025年2月18日	思わぬ出会いが共感と生きるチカラを育む 子どもたちを孤立させないマンガプロジェクト <講師> 山辺 さおりさん 株式会社小学館集英社プロダクション パブリックサービス事業部 井村 良英さん 認定NPO法人育て上げネット執行役員 小泉 香織さん アクセンチュア株式会社成長戦略グループ コーポレート・シチズンシップ 岩名 紫野 公益社団法人日本フィランソロピー協会事業部 (13名)
第430回 (特別企画) 2025年3月3日	アフリカ市場の最新動向 ～日系企業が切り拓く社会貢献とビジネスの新地平～ 共催：株式会社矢野経済研究所 <講師> 種谷 謙一さん セントパーツ株式会社代表取締役社長 松本 基さん ソフトバンク株式会社テクノロジーユニット統括 プロダクト技術本部 ユビキタスネットワーク企画統括部担当部長 菊池 モアナさん Borderless Tanzania Limited LUNA sanitary products 代表取締役社長 坂田 優さん 株式会社LIXIL SATO 事業部 アジア地域リーダー 芝田 勲さん 住友化学株式会社 サステナビリティ推進部主席部長 <ファシリテーター> 水越 孝さん 株式会社矢野経済研究所代表取締役社長 (32名)

※講師の肩書は開催時点のものです。



サステナビリティ基礎講座 第1回



第430回定例セミナー（特別企画）

業界別勉強会



患者団体へのより有効なサポートや患者団体との連携を模索するため、2022年度より製薬企業の横断的な勉強会を開催しています。第5回では、患者支援団体と当事者にお話を伺い、望まれている支援について共に考え、意見交換を行ないました。

開催日/会場	内容
2025年2月17日 第一三共株式会社	第5回 患者会支援として本当に望まれていることを考える 榮島 佳子さん 一般社団法人みんなのレモネードの会代表理事 亀山 晴生さん 大学生（一般社団法人みんなのレモネードで活動） 光原 ゆきさん 認定特定非営利活動法人キープ・ママ・スマイリング理事長 参加企業：8社

※肩書および団体名称は開催時点のものです。

ビジネスと人権エグゼクティブセミナー

主催：公益社団法人日本フィランソロピー協会

協力（会場提供）：アミタホールディングス株式会社

<https://www.philanthropy.or.jp/exec/>

「リベラルアーツとして人権問題に向き合うこと」をテーマに、各界の第一線で活躍する講師陣を迎えた全7回の連続講座を開催しました。本講座では、参加企業の皆さまとともに対話を重ねながら、人権に対する理解を深め、ビジネスが果たすべき「人権問題解決」における役割とその可能性について、改めて考える機会を提供しました。

座長には、編集者で京都橘大学客員教授、そしてJPA理事でもある河野通和さんをお迎えし、各回のテーマを深く掘り下げる問いかけを通じて、参加者一人ひとりに思考の転換を促していただきました。

講座には15社の企業が参加し、経営層を中心とした参加者の多様な視点から、人権課題へのアプローチについて活発な議論が交わされ、企業経営におけるリベラルアーツの実践として、人権という普遍的課題にどう向き合うべきかを考える貴重な機会となりました。

2025年度もさらなる課題の深掘りをすべく本セミナーを継続開催する予定です。

<座長メッセージ>



河野通和さん

京都橘大学客員教授、「たちばな
教養学校 Ukon（うこん）」学頭、
当協会理事

日本は「人権後進国」と言われます。最初に聞いた時には、驚きました。しかも世界が問題視している日本の人権状況は、なかなか解消されません。日本に必要なのは、「人権省」のような国家機関の設置や、国際基準を満たすような諸制度の整備、人権意識の啓発・教育であると言われます。一方で、現在の国際人権の推移をにらみながら、この間独自の動きを見せてきた日本企業の対応など、一定の成果もありました。

私たちは、いま改めて人権理念の歴史と本質を理解し、「自分ごと」として捉え直し、それぞれの立場や状況に応じて、適切に人権問題と向き合う「人権力」の強化に取り組むべきではないでしょうか。その学びの一助となれば幸いです。

第1回 なぜサステナブル経営に「人権」の視点が重要か

開催日：2024年10月17日

講師：若林 秀樹さん

THINK Lobby 所長、ビジネスと人権市民社会プラットフォーム代表幹事
特定非営利活動法人国際協力NGOセンター（JANIC）理事



第2回 人権問題～事件、仕事、市民活動から学んだこと～

開催日：2024年10月31日

講師：村木 厚子さん

社会福祉法人全国社会福祉協議会 会長



第3回 分断か共生か？ 日本の未来の分岐点 ～外国人労働者の受入れ・移民政策の課題から考える～

開催日：2024年11月13日

講師：鈴木 江理子さん
国士舘大学文学部教授



第4回 ジェンダーギャップはなぜなくなるのか

開催日：2024年11月28日

講師：小島 慶子さん
エッセイスト、メディアパーソナリティ、東京大学大学院情報学環客員研究員
昭和女子大学現代ビジネス研究所特別研究員



第5回 “うしろめたさ” から考える商いの倫理

開催日：2024年12月19日

講師：松村 圭一郎さん
岡山大学文学部准教授



第6回 いのちの可能性を追求するウェルビーイング

開催日：2025年1月16日

講師：稲葉 俊郎さん
医師・医学博士、
慶應義塾大学システムデザイン・マネジメント（SDM）特任教授



第7回 共助社会と共感経済 ～アダム・スミスを起点として～

開催日：2025年1月28日

講師：堂目 卓生さん
大阪大学総長補佐、社会ソリューションイニシアティブ長、
大学院経済学研究科教授



※肩書は開催時点のものです。

顕彰事業

第22回企業フィランソロピー大賞

2003年創設の「企業フィランソロピー大賞」は、社会課題解決に真摯に向き合い、自社の経営資源（人材・ノウハウ・技術・情報等）を有機的・持続的に活用した企業の社会貢献活動を顕彰しています。新たな価値創造を実践する企業を顕彰し、広く社会に発信することにより、公正で温もりと活力ある社会を次世代に伝える一助とします。第22回贈呈式は、2025年2月28日に、如水会館（東京都千代田区）にて開催しました。

<https://www.philanthropy.or.jp/award/22/>



公益社団法人 日本フィランソロピー



(左) 株式会社山陰合同銀行
常務執行役員 田中良和 様
(右) 当協会会長 浅野史郎

第22回 企業フィランソロピー大賞

▶ 株式会社山陰合同銀行（島根県松江市）

企業フィランソロピー賞

- ▶ 《はばたけ！地域照らす若者賞》 株式会社AOI Pro. (東京都港区)
- ▶ 《ふるさとの人づくり賞》 株式会社一ノ蔵 (宮城県大崎市)
- ▶ 《いのち輝く夢の空間賞》 セイコーエプソン株式会社 (長野県諏訪市)
- ▶ 《指で読むDE & I賞》 株式会社毎日新聞社 (東京都千代田区)
- ▶ 《思いつなぐ共生社会賞》 丸紅株式会社 (東京都千代田区)

<選考委員（敬称略）>

委員長 國部 克彦	神戸大学大学院 経営学研究科長 経営学部長
委員 井手 明子	東北電力株式会社社外取締役 住友商事株式会社社外取締役
佐藤 雄二郎	経済ジャーナリスト
渋澤 健	シブサワ・アンド・カンパニー 代表取締役

※肩書は贈呈式時点のものです。

出版事業

フィランソロピーを拡げる啓発活動として
機関誌・書籍を発行しています。

機関誌『フィランソロピー』 1992年創刊

機関誌『フィランソロピー』（隔月発行）では、社会課題を特集として企画。企業の先進事例や個人・NPOの活動を紹介しています。表紙には、障がいのある方々の多彩な作品を掲載しています。

※作品の一部は、フィランソロピー名刺としてご利用いただけます。（詳細はp.26）

<https://www.philanthropy.or.jp/magazine/>



ホームページで、巻頭インタビュー・座談会の全文をご覧いただけます。

2024年度 通号（発行月）	特集テーマ／巻頭インタビュー・座談会
No.278（4月号）	特集：ビジネスと人権 巻頭：日本に「人権省」の設立を！ 土井 香苗さん ヒューマン・ライツ・ウォッチ日本代表
No.279（6月号）	特集：農福連携でエコシステム社会を目指す 巻頭：農福連携で人と地域を結ぶ 小島 希世子さん 株式会社えと菜園代表取締役、NPO法人農スクール代表理事 風間 美代子さん NPO法人多摩草むらの会代表理事、社会福祉法人草むら理事長
No.280（8月号）	特集：ワインが醸すフィランソロピー 巻頭：ワインとは土地の個性を生かし 時間の経過を楽しむもの 玉村 豊男さん 株式会社ヴィラデストワイナリー オーナー
No.281（10月号）	特集：本のチカラ 巻頭：本屋と語る「本のチカラ」 辻山 良雄さん Title店主 二村 知子さん 株式会社隆祥堂書店代表取締役 河野 通和さん 京都橘大学客員教授、公益社団法人日本フィランソロピー協会理事
No.282（12月号）	特集：民主主義の危機と「ローカルメディアの役割」 巻頭：ローカルメディアの未来展望 村上 圭子さん NHK放送文化研究所 メディア研究部研究主幹
No.283（2月号）	特集：未来を拓く理念経営 巻頭：理念を生かし組織の資源にするために 佐宗 邦威さん 株式会社BIOTOPE代表、戦略デザイナー

※肩書は実施時点のものです。

地域連携事業

社会の誰もが、一人ひとりかけがえのない存在として尊重される
「居場所と出番のある地域」づくりを目指します。

休眠預金活用事業 農福連携による共生社会創造事業

公益社団法人
日本フィランソロピー協会



株式会社農協観光

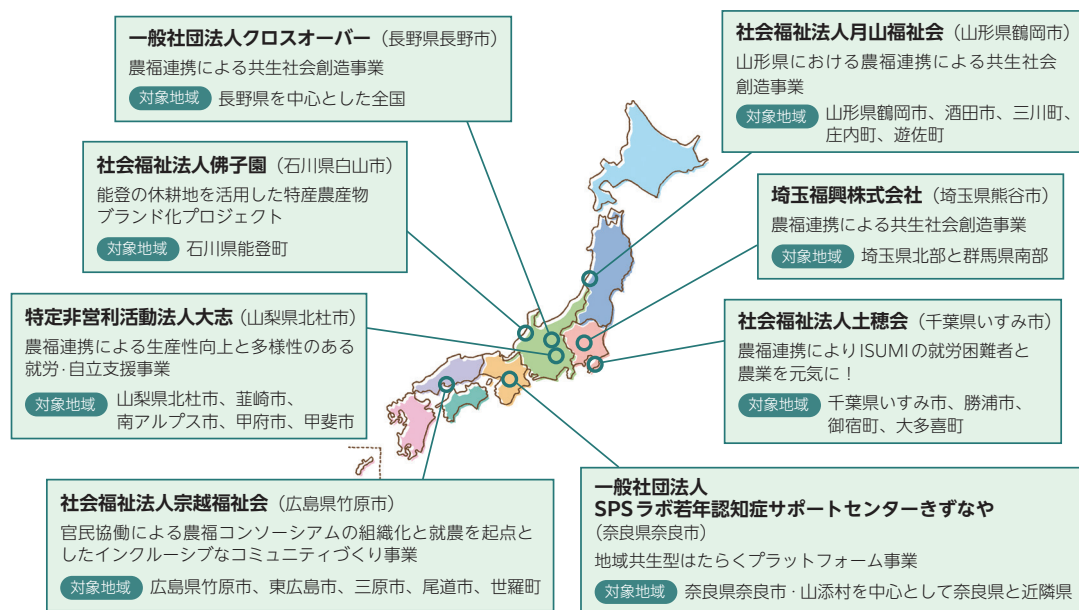


農福連携は、障がい者等の就労の場として彼らを担い手・継承者不足の農業につなぐ取り組みですが、私たちは農業と就労困難者をつなぐだけでなく、農福連携を通じて、誰もが生き生きと働ける環境づくり、農業の発展的拡がり、生態系のバランスをとったエコシステムの下、元気で温かい地域コミュニティの創生につながると考えています。

株式会社農協観光とコンソーシアムを組み、2023年10月から始まった本事業は2年目。2024年度は、障がい者、ひきこもり等の就労困難者の就労支援を目的とし、地域全体での農福連携が推進され、自立的に発展していくことを目指し、全国の8つの実行団体へ助成。農福推進リーダー研修や、事例視察の開催のほか、各団体の活動をさまざまな形で伴走支援しています。

<https://www.philanthropy.or.jp/noufuku/>

■実行団体



※本事業は、一般財団法人日本民間公益活動連携機構（JANPIA）が公募した「休眠預金等活用法に基づく資金分配団体」として、2023 年度通常枠「草の根活動支援事業」を実施する事業で、JPA は株式会社農協観光とコンソーシアムを組み、推進しています。

■農福推進リーダー養成研修

2024年9月5～6日の2日間、東京都内で実行団体の各事業責任者・推進者を対象として開催し、18名が参加しました。農福推進リーダーには、多様な人や組織と連携して農福連携協働コミュニティを形成する役割を期待しています。

リーダーの資質のひとつと考える「ネットワーク力」の向上と、地域のサポーターづくりを主眼に、ワークショップや講義、ディスカッションを行ないました。



農福推進リーダー養成研修



■事例視察（高知県安芸市）

2025年2月19～20日の2日間開催し、実行団体17名が参加しました。安芸市では、「生きづらさ」を抱えた人を地域社会でいかに受け止め、支え合っていくのかについて、行政、福祉施設、農家、地域住民などによる大きなネットワークを作って活動しています。

JA 高知県安芸集出荷場、一般社団法人こうち絆ファーム、土佐備長炭一（ICHI）を訪問後、東部地域ネットワーク会議に参加し、地域全体での情報共有・意見交換の現場で、地域連携のあり様を体感しました。



こうち絆ファームの視察



東部地域ネットワーク会議

企業の CSR支援事業

社会貢献活動として
企業の従業員が参加する
プログラムを提供しています。

地域のこども食堂にて



従業員のボランティア・マッチングプログラム

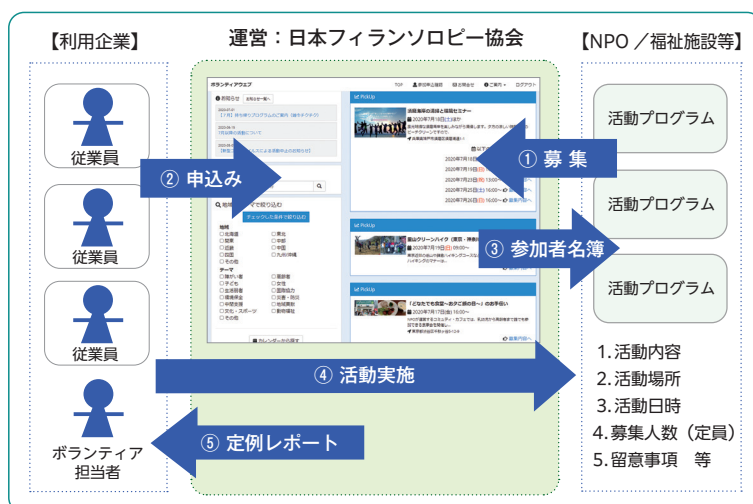
従業員のNPO等へのボランティア参加を支援します。プログラム企画、受け入れ団体の紹介および調整、事前・事後研修、運営協力などを行ないます。

(1) ボランティア・マッチングサイト「ボランティアウェブ」

<https://www.philanthropy.or.jp/vweb/>

JPA 独自のボランティア・マッチングサイトです。全国の NPO からニーズをヒアリングして掲載したボランティア活動に、企業の従業員がウェブサイトを通じて申し込みができます。2024年度は130団体・194種類の活動を掲載。新規で6社が利用を開始し、計24社、延べ1,786名がボランティアに参加しました。そのほか、企業主催のボランティア活動3,128名の参加も受け付けました。

「ボランティアウェブ」の利用イメージ



【ボランティアウェブ利用企業】(2024年度実績)

※社名50音順、★は2024年度から開始

- アサヒグループジャパン株式会社
- アストラゼネカ株式会社
- イオン株式会社
- オリンパス株式会社
- 花王株式会社 ★
- サントリーホールディングス株式会社
- 株式会社ジェーシービー
- 株式会社ジャックス
- ジョンソン・エンド・ジョンソン日本法人グループ
- 住友金属鉱山株式会社 ★
- セイコーエプソン株式会社
- 積水ハウス株式会社

- ソニーグループ株式会社
- 第一三共株式会社
- 株式会社大和証券グループ本社 ★
- 豊田通商株式会社 ★
- パナソニック ホールディングス株式会社
- 富士通株式会社
- 株式会社ブリヂストン
- 三菱重工業株式会社 ★
- 株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ
- ヤマハ株式会社
- 株式会社LIFULL
- リシュモンジャパン合同会社 ★

【ボランティア参加者の声】

地域のこども食堂で「おかず寺子屋・おやつ寺子屋」をお手伝い！（兵庫県）

- こども食堂は、食事を作って提供して、食べた後に勉強や遊びの時間を取るというのがスタンダードだという認識でしたが、こちらは下準備をして、子どもたちに調理をしてもらい、持って帰ってもらうという「料理教室」的なスタイルでした。
- 自分自身も簡単な料理はするので、うまくできるように手伝いながら、いろいろと教えることができました。子どもたちから「とても楽しかった」という言葉をもらえたのが本当にうれしくて、参加してよかったと思いました。

音楽で支援！障がいのある人とともに楽しむコンサート（静岡県）

- 20年以上障がい者とその家族向けにコンサートを実施している方々がいることを知り、その取り組みを実際に体験できて良かったです。コンサートの雰囲気も和やかで温かく、ボランティアというよりも、参加者の皆さんと一緒に楽しませていただきました。
- 普段とは違う経験をすることができ、またさまざまな方との交流によって、視野が広がりました。
- 障がいのある皆さんとどのように接すればよいのか、少々不安でしたが、和やかな雰囲気と一緒に音楽やダンスを楽しむことができました。関係者、参加者の皆さんの笑顔から元気をいただき、改めて音楽やそこから生まれる人と人のつながりの素晴らしさを感じることができました。



入間で障がい者と一緒にクライミングを楽しもう！

ビレイヤー募集（埼玉県）

- スキル・経験にあったプログラムに参加することができました。全員ウエルカムな姿勢でしたので、とても楽しく、そして勉強になりました。

ビレイヤーとは、クライマーが登る際にビレイ（安全確保）する人



JR新宿駅周辺の路上生活者の訪問ボランティア（東京都）

- ボランティア参加者の一人ひとりが参加意義を理解し、積極的に活動していることが印象的でした。路上生活者の生活環境を肌で感じることができ、とても勉強になりました。

鎌倉・御谷山林^{おやつ}での緑地を守るボランティア（神奈川県）

- 地元高校生の参加もあり、地元の皆さんが大変地域を愛されていることが伝わりました。古都保存法制定のため、13年にわたり国と交渉されたという経緯がわかり、自然を守ることの難しさを感じました。

★利用企業からコメントをいただきました！

ボランティアウェブで社員のボランティア活動を後押し



MUFGは、社員一人ひとりの興味やスケジュールに合わせて社会貢献活動に参加できるよう、ボランティアウェブを活用しています。また、MUFG独自の社会貢献イベントであるクリスマスカード作り、ビーチクリーン活動、間伐材を活用した木製スタンプ作りイベントなどへの社員ボランティアを募集するためにも、このウェブを利用しています。

ボランティアウェブを活用したおかげで、社員の社会貢献活動への参加人数は年々増加しており、社員の意識が変わってきていると感じています。これからも社員とともに全国で社会貢献活動を実施していきます。

株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ（MUFG）

経営企画部ブランド戦略 GR 石渡真央さん

(2) 個別企業向けボランティアのコーディネート

個別の企業ニーズに沿ってボランティアプログラムの企画や実施支援を行ないます。

■アクセンチュア株式会社

多くの従業員に社会課題へ関心を持っていただけるよう、毎月行なっている講演会やボランティア活動において、団体の紹介や運営サポートを行ないました。

■アストラゼネカ株式会社

営業会議で全国から集合した社員が、ホテルの大会議室で行なうボランティア活動の調整を行ないました。2024年度は、インドやバングラデシュの子どもたちに送る折り紙の教本作りを実施しました。

■インスメッド合同会社

グローバルに展開されている Global Day of good の国内ボランティアプログラムを提案しました。

■オーシャンネットワークエクスプレスジャパン株式会社

従業員の社会貢献活動プログラムの第3回を開催。病気の子どもたちに贈る人形作りを行ないました。

■サノフィ株式会社

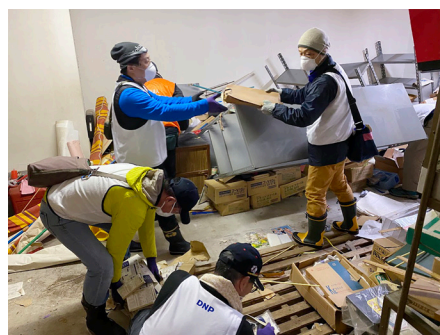
全国の社員と東京本社をオンラインでつなぎ、ハイブリッドで開催するボランティア活動として、インドの子どもたちに送る折り紙の教本作りを行ないました。

■大日本印刷株式会社

令和6年能登半島地震、奥能登豪雨被災地での従業員ボランティア派遣企画をサポート。2024年7月と11月で計4日間、石川県七尾市や輪島市で延べ44名が参加したボランティア活動に対し、活動先の調整や現地移動手段の確保、当日のコーディネートなどを行ないました。

■大和証券グループ

従業員組合向けのボランティア活動をコーディネートしました。2025年1月から3月にかけて計3回、会議室で行なう活動、能登半島地震の被災地支援活動、海岸清掃活動を行ないました。



大日本印刷株式会社 能登でのボランティア活動

■日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社

日本におけるグループ3社の協働で4カ月間かけて行なったボランティア活動のうち、小児がんと向き合う子どもたちに届ける折り紙づくり、視覚障がい者のための音声ガイド地図作成、間伐材を用いたおもちゃ作りなど6プログラムの企画・実施しました。

■株式会社みずほフィナンシャルグループ

グローバルコーポレートインベストメントバンキング部門のボランティア活動について企画および調整を行ない、カンボジアに送る軍手ぬいぐるみ作りを実施しました。また、その他の従業員参加の社会貢献活動について、企画内容の助言や受け入れ団体の紹介を行ないました。

従業員等の寄付マッチングプログラム「フィランソロピーバンク」

企業や個人の寄付金を、非営利団体の活動費や、個人への奨学金として配布します。

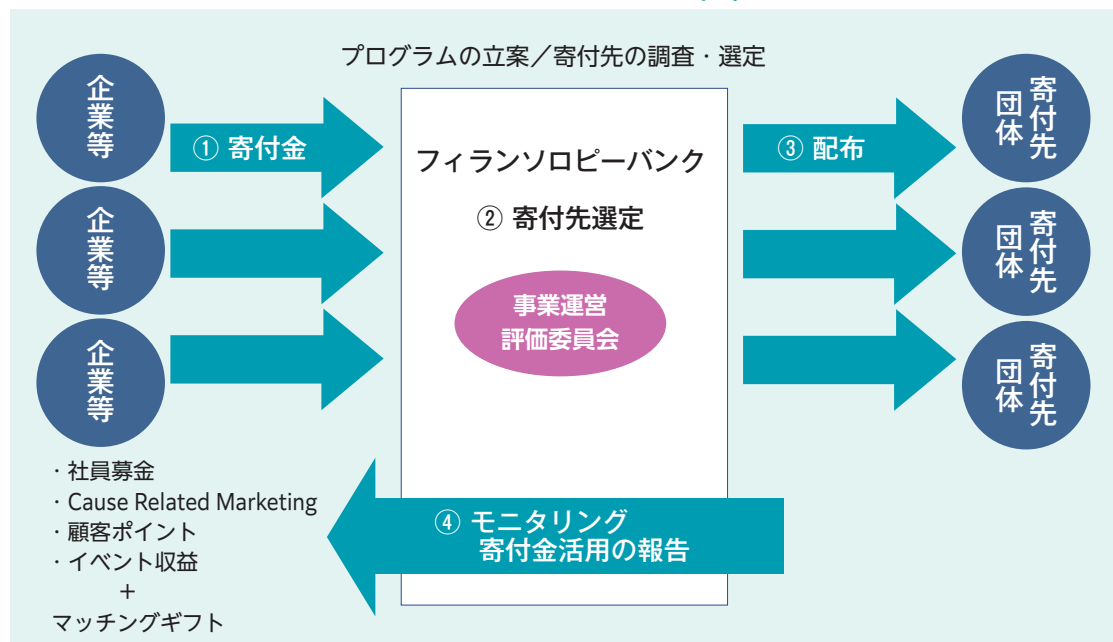
(1) 非営利団体への寄付

<https://www.philanthropy.or.jp/pb/>

2024年度は、112の非営利団体に寄付しました。寄付元は20ページ、寄付先については、資料編「寄付先NPO」（27～28ページ）に掲載しています。

総額 94,081,472円

フィランソロピーバンクの仕組み



★利用企業からコメントをいただきました！



「社員有志による寄付制度（Share Happiness倶楽部）」は、弊社社員が寄付を通じて地域や社会に貢献するための制度となります。この制度は、寄付のみならず社員が社会課題解決に尽力する団体の活動を知る機会を提供することも目的としています。

毎年12月は「寄付月間（Giving December）」として全国的に寄付の啓発キャンペーンも行なわれており、弊社もこれに合わせて、寄付活動を推進しています。日本フィランソロピー協会には、寄付先団体の推薦や選定、寄付サイトの運営に多大なるご協力をいただき感謝しております。

引き続き、一年の終わりに社員の気持ちを寄付に託したいと思います。

東京海上日動火災保険株式会社

経営企画部サステナビリティ室推進役 上野毛戸 淑子さん

2024年度 フィランソロピーバンク利用企業・個人と寄付内容

社名	内容
キッコーマン株式会社	能登半島地震・豪雨災害支援の従業員募金、および企業からのマッチング寄付を1団体に配布。
サントリーホールディングス株式会社	2024年1月に実施した能登地震災害支援従業員募金を4団体に配布、従業員ボランティアの受け入れを調整。 10月に実施した能登豪雨災害支援従業員募金を4団体に配布。 12月のたすけあい月間の従業員募金を4団体に配布。
第一三共株式会社	2024年度よりがん領域および難病の患者団体・患者支援団体を対象として、患者団体や支援団体の活動と次世代を担う人材の応援を通じて患者さんのQOLを上げることを目的に助成プログラムを開設。8団体に配布。
大和ハウス工業株式会社 大和リビング株式会社 大和ハウス賃貸リフォーム株式会社	賃貸住宅事業に関わる収益から寄付金を拠出するプログラムで、「多様な人が心豊かに生き、地域の魅力溢れるコミュニティづくり」をテーマに、10団体に配布。
東京海上日動 あんしん生命保険株式会社	社員による募金、および代理店でのグッズ販売の一部を寄付金として、病気による長期入院の児童支援団体、難病患者支援団体、認知症啓発団体の3団体に配布。
東京海上日動火災保険株式会社	従業員による募金制度「東京海上日動Share Happiness倶楽部」の実施。9団体に寄付金を配布。
TOYO TIRE 株式会社	グループ従業員の80%が募金に参加している環境基金で、公募、選考を行なった11団体に助成。
日本ロレアル株式会社	従業員募金プログラムで、環境および女性分野の2団体に配布。 能登半島被災地における女性支援プログラムで1団体に寄付金を配布。
株式会社ファンケル	顧客からのポイント寄付を金額換算したものと、社員からの募金による寄付プログラムで、全国の重度心身障害者施設および視覚障害者施設／支援団体11団体に配布。
株式会社ブリヂストン	従業員募金制度BSmile募金で5つのターゲット分野、(1) 環境、(2) 安心・安全なmobility社会、(3) 地域社会、(4) AHL(Active Healthy Lifestyle)とDE&I、(5) 人材育成・教育を対象として公募、選考をした9団体に助成。 2024年度より相互扶助制度として従業員が関わる地域活動支援を開始、全国各地75の活動に助成。
株式会社ゆうちょ銀行	商品や業務の環境負荷の軽減効果を寄付金として還元するプログラムで、「地域社会の持続的発展ために、地域住民と共に取り組む環境保全」をテーマに、13団体に配布。
個人	障害児対象のお金を中心としたライフスタイル教育を行なう団体に配布。

(2) 個人の寄付推進事業

■能登半島地震支援基金

<https://www.philanthropy.or.jp/pb/noto2024/>

2024年1月1日に発生した能登半島地震への支援の輪を広げるため、基金を設立。2月13日からスタートし、6月30日まで募集しました。また、JPAの会員企業3社に賛同いただき、共に寄付を募りました。基金は4,941,600円となり、下記の団体へ配布を決定しました。

<第1期 寄付先団体>

- ・ 町野復興プロジェクト実行委員会 (石川県輪島市)
- ・ 被災地NGO協働センター (神戸市)
- ・ 学生団体わかものと (徳島市)

<第2期 寄付先団体>

- ・ フードバンク能登 (石川県穴水町)
- ・ 社会福祉法人佛子園 (石川県白山市)
- ・ 認定NPO法人日本ハビタット協会 (東京都千代田区)
- ・ 認定NPO法人日本セラピューティックケア協会 (福岡県太宰府市)

(3) 奨学金プログラム（個人向け）

■東京海上日動あんしん生命保険株式会社

<https://www.philanthropy.or.jp/anshin/>

2016年度より、社会貢献活動の一環として「遺児への教育・養育支援」を実施し、がんなどの疾病により保護者を亡くした子どもたちのために基金を設立。JPAは創立20周年記念「東京海上日動あんしん生命 奨学金制度」の公募、審査、給付金の配布を含む運営を支援しています。

★奨学金制度（給付型）

対象：疾病により保護者を失い、大学等への進学に経済的支援を必要とする方（年間30万円）

- ・ 2024年度は、前年度給付が決まった奨学生名210名に、計6,300万円を給付
- ・ 2024年6月より募集を開始した2025年度奨学生60名内定

個別企業の社会貢献推進

(1) 社会貢献活動支援

■アステラス製薬株式会社

「患者会次世代リーダー育成のためのLeadership Training Program」

患者会の安定的・持続的な組織づくりを可能にする人材育成を目的とした、研修会の企画・開発・運営協力を行ないました。患者さんの生活面でのQOLの向上や、患者会の組織基盤強化のために、患者間や組織外とのコミュニケーションスキル向上と組織運営のマネジメントスキルを磨く機会を提供し、14団体から21名が参加しました。

■クラシエ株式会社「しるしの日募金」

従業員募金「しるしの日募金」寄付先団体の推薦を行ないました。2024年度は子ども支援団体にフォーカスしました。

■サントリーホールディングス株式会社

「サントリー チャレンジド・スポーツ アスリート奨励金」第3期

地域におけるチャレンジド・スポーツ（パラスポーツ）の普及拡大・環境整備を目的としています。各都道府県、政令指定都市の障がい者スポーツ協会から推薦を受けた若手アスリートと、各協会・競技団体等に対して奨励金を給付しました。第3期はアスリート76名、障がい者スポーツ協会または競技団体20団体を採択し、総額2,850万円を給付しました。

■住友商事株式会社

「100SEED」エントリー企画参加型オンラインセミナー

社員参加型社会貢献プログラム「100SEED」活動のサポートをしました。100SEEDの参加社員数拡大に向けたエントリー層獲得施策として参加型オンラインセミナーの企画提案と実施支援を行ないました。また、こども食堂に直接ボランティア参加できるよう、受け入れ団体との調整も行ないました。

■東京海上日動火災保険株式会社

「海を守る活動（アマモの保全再生活動）」

「海」を取り巻く環境におけるさまざまな課題解決のため、アマモ場の保全・再生活動を行なう活動団体への支援とともに、東京海上日動社員、代理店およびその家族による活動のサポートをしました。2022年以降に実施した横浜市、福岡市、大阪府阪南市に加え、2024年度は新たに神戸市でも活動がスタートしました。



東京海上日動火災保険株式会社
「海を守る活動（アマモの保全再生活動）」

■東京ガス株式会社

「森里海つなぐプロジェクト」

「森」「里」「海」をつなぐ、環境保全を目的にした社会貢献活動の運営事務局として、全体の企画と各種プログラム実施を支援しています。グループ企業の従業員も参加して実施された、横浜市のアマモ場保全活動、東京都清瀬市での雑木林での体験活動、埼玉県上尾市でのかいぼり作業では、運営のサポートを行ないました。



東京ガス株式会社
「森里海つなぐプロジェクト」

■日本生命保険相互会社「プロボノ活動支援」

日本生命では、2020年度から継続して、サステナビリティ経営推進部、人材開発部の共同事業としてプロボノ活動を行なっています。JPAはこの活動を2022年度からサポートし、事務局として伴走しています。2024年度はNPO 2団体とのマッチングを実施しました。

■PGF生命保険株式会社「SDGs プログラム」

“未来を担う子どもたち”をテーマに、子どもの貧困問題の本質的な解決に取り組む団体と、遠方の自宅を離れ、都内の専門病院で治療を受ける子どもたちとその家族のための滞在施設を運営する団体への寄付を行ないました。また、都内の高校で金融ケイパビリティ教育を行なう「PGF オープンアカデミー」を開講しました。

■株式会社プロロジス「プロロジス就活応援奨学金」

児童養護施設等から進学し、就職を目指す学生のための給付型奨学金「プロロジス就活応援奨学金」の支援を行ないました。公募に向けた資料準備、関係団体等への告知、申請者審査を実施したほか、奨学生が参加する企業訪問企画についてサポートしました。

(2) 被災地復興支援

■サントリーホールディングス株式会社

「みらいチャレンジプログラム」

<https://www.philanthropy.or.jp/suntory/mirai/03/>

サントリーグループの東日本大震災復興支援「サントリー東北サンさんプロジェクト」の一環として、2021年2月より新規スタート。岩手県、宮城県、福島県の地域の再興を目指して新たな活動を立ち上げようという個人・団体の活動を奨励金という形で支援しました。最終年度である第3期は2024年6月に終了しました。

「シン・みらいチャレンジプログラム」

<https://www.philanthropy.or.jp/suntory/shin-mirai/>

みらいチャレンジプログラムの後継プログラムとして2023年11月に公募し、岩手県、宮城県、福島県で採択された、37件の活動が2024年4月にスタートしました。JPAは各団体への訪問や伴走支援を行ないました。個々の活動支援だけでなく、県域を超えた連携を目指して、2024年12月には宮城県仙台市で3県合同の活動報告会を開催しました。

(3) 助成事業支援

■アステラス製薬株式会社「スターライトパートナー患者会助成金」

難病の患者会等を対象に、患者会の自立や持続的発展に資する活動に対する助成事業において審査員として参画しました。

■三共生興株式会社「一般財団法人サンライズ財団による助成事業」

環境保全を目的とした「環境助成金」、および繊維（シルク）産業の分野で活動をする団体の事業を対象とする「未来につなぐ糸助成金」の2つの助成金プログラムの運営支援を行ないました。環境保全分野は8団体、繊維産業分野は2団体に助成しました。

■田辺三菱製薬株式会社「田辺三菱製薬 手のひらパートナープログラム」

難病の患者や家族の「生活の質（QOL）向上」のために、難病患者団体や支援団体が実施する活動への助成金プログラムの運営支援を行ない、第13期として13団体に助成しました。また、助成団体間の情報交換や交流の機会として、活動報告会を開催しました。

調査・報告

CSR・社会貢献における社員参画の推進に関するアンケート調査

2014年、2019年に続き、3回目の調査として、マッチングギフトの現状と課題に関するアンケート調査を実施しました。本調査では、マッチングギフトについて「社員や顧客の寄付や活動に対し企業が一定の割合で上乘せし、金銭による寄付を行なうこと。売り上げ連動型寄付（コース・リレーテッド・マーケティング）は含まない」と定義。回答企業95社のうち、マッチングギフトを行なった企業は51社でした。

アンケートでは、災害時やイベント開催時に期間限定でマッチングギフトを実施する企業が約7割でした。社員募金では、現金での集金が減り、オンラインシステムの活用が増えています。また、参加率を高めるには、社員が寄付先団体のボランティア活動に参加する、受け入れ団体側が活動報告の精度を上げるなど、相互理解と共感の輪を広げる工夫が必要であることがわかりました。これらの調査結果をもとに、第423回定例セミナーで報告会を行ないました。

JPAは、社会課題解決支援の方法のひとつとして、今後もマッチングギフトを通じた従業員の社会参画の推進をサポートしてまいります。

目的	企業のCSR・社会貢献における社員参画の推進のため、企業で行なわれている取り組みについて、マッチングギフト制度を中心に情報収集・分析を行ない、各社と共有する。それによりマッチングギフトを通じた従業員の社会参画の促進を図る。
調査期間	2024年5月～6月
調査方法	WEB入力式
調査対象企業	720社（公益社団法人日本フィランソロピー協会会員企業および、東洋経済「CSR企業ランキング」上位300社、金融企業）
回答企業数	95社

個人の フィランソロピー 推進

一人ひとりの市民が社会をつくる一員として、主体的に社会参加・社会貢献するフィランソロピー社会の実現を目指して、個人フィランソロピーを推進します。

Thanks Birthday & Happy Donation ! 誕生日寄付

<https://www.birthday-donation.jp/>

誕生日寄付とは…

誕生日を少し違う発想で捉え直し、与えられたいのちに感謝する日として、「子どもたちの今を支え、未来に希望をつなぐ」ための活動です。いのちを授かった日＝「誕生日」に、こどもたちを支援する団体に寄付をし、寄付文化の醸成に取り組んでいます。

	期間	寄付金額	寄付者数
第1期	2019年1月～2020年5月	10,839,715円	235名
第2期	2020年6月～2021年3月	4,969,632円	181名
第3期	2021年4月～2022年3月	3,513,578円	172名
第4期	2022年4月～2023年3月	4,388,651円	160名
第5期	2023年4月～2024年3月	3,787,150円	148名
第6期	2024年4月～2025年3月	2,595,601円	124名
合計		30,094,327円	1020名

第6期カテゴリ別寄付金額：

「生きるを支える」 1,016,125円
「育ちを支える」 761,977円
「支える人を支える」 817,499円

※寄付先団体名は寄付先NPO一覧（28ページ）に掲載しています。

【誕生日寄付】寄付者からのメッセージ

- 3月22日に迎える長女の7歳の誕生日を祝い、寄付をさせていただきます。少しでもお役に立ちますと幸いです。（30代男性）
- 産んでくれた母に感謝し、喜びのお裾分けの気持ちで誕生日寄付をさせていただきます。（60代女性）

誕生日寄付×カタール富山

地域の子どもを応援する取り組みとして、Jリーグサッカークラブであるカタール富山と連携した、富山県内の団体に向けた寄付プログラムです。第3期（2023年11月～2024年10月）は138,648円を一般社団法人なかのまに寄付しました。

写真は第2期寄付先の
認定特定非営利活動法人北陸青少年自立援助センター



©KATALLER TOYAMA

「カッコ好いお金のつかい方」セミナー



2025年3月27日に株式会社さわかみホールディングスと共催で誕生日寄付特別セミナーを開催。同社代表取締役の澤上篤人さんからは「長期投資×社会貢献（お金の使い方）」、認定NPO法人育て上げネット執行役員の井村良英さんからは、「子ども・若者の現状と私たちができること」について、お話をうかがいました。また翌日がお誕生日という澤上さんから、誕生日寄付をいただきました。参加人数：36名

フィランソロピー名刺

名刺を通じた社会貢献プロジェクトです。障がいや難病など、ハンディキャップのあるアーティストの作品を名刺で紹介し、その収益の一部をアーティストや所属する団体に、また、印刷を福祉作業施設に委託することで、障がい者の就労機会を創出しています。作品の種類は100以上で、ウェブサイトの「作品カタログ」から作品を選び、お申し込みいただけます。

<https://www.philanthropy.or.jp/meishi/>

1件：100枚

年度	2020	2021	2022	2023	2024
制作件数	115	164	201	227	213

★利用者からコメントをいただきました！



水越 孝さん 株式会社矢野経済研究所 代表取締役社長

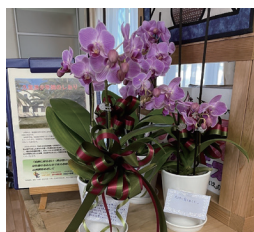
フィランソロピー名刺を持ちたいと思った理由は、自由で伸びやかな作品に魅了されたためです。名刺は妻が運営しているシェア型本屋さん「センイチブックス」で使っています。一人ひとりの個性発信基地を目指す私たちにとって“障がい”も個性であって、ゆえに社会貢献に対する特別な心構えもなく、ごく自然に使っています。とは言え、自立の力になっているとすればとてもうれしく思います。

次世代 育成事業

久里浜少年院 社会貢献活動「花育」

<https://www.philanthropy.or.jp/weblog/20250120/>

久里浜少年院在院生による社会貢献活動「花育（※）」をサポートしています。在院生が、胡蝶蘭を育てることを通して、かけがえのない命の存在に気づき、自他を大切に思うきっかけづくりとしています。一人一鉢で手渡された胡蝶蘭に、それぞれが「美」「荘厳華麗」「一蘭」など名前を付け、自室（単独室）で開花するまで育てました。贈呈式では贈呈先団体が、在院生から直接、胡蝶蘭を受け取り、感謝の気持ちを伝えました。



贈呈先に飾られた胡蝶蘭

- 参加者：全在院生51名
- 協力：有限会社椎名洋ラン園
- 内容：2024年10月7日導入指導、2025年1月20日贈呈式
- 贈呈先：計13団体（病気の子どもと家族を支える団体、障がいのある人や高齢の人の暮らしを支える団体、困難な状況にある子どもや若者の生活や自立を支える団体、難民の暮らしを支える／国際理解を促進する団体、働きたくても働けない人の就農を支援する団体等）

※「花育（はないく）」…花を教材に生命の大切さや他を思う心を実感し、自己有用感・自己肯定感を高めることで非認知能力を醸成する活動。

企業の次世代育成事業データベース

<https://www.philanthropy.or.jp/csrd/children>

企業の社会貢献活動やNPOの情報等を収集・整理し、企業などが広く活用することを目的に「JPA企業活動データベース」の構築を進めてきました。その一環として、2024年2月に次世代育成に取り組む企業の情報を集約したデータベースを公開しました。47のプログラムの情報を掲載しており、新規掲載のお申し込みも受け付けています。

寄付先団体・個人（2024年度実績）

※寄付者（法人）は50音順

寄付者（法人）	寄付先団体	寄付者（法人）	寄付先団体
サントリーホールディングス株式会社	〈能登半島地震災害従業員募金〉 一般社団法人日本カーシェアリング協会 一般社団法人全国フードバンク推進協議会 （任意団体）能登半島地震避難者受入基金 （任意団体）北陸学院大学被災地支援センター 〈能登半島豪雨災害従業員募金〉 公益財団法人あすのば 一般社団法人ピースポート災害支援センター 特定非営利活動法人じっくらあと 認定特定非営利活動法人 日本災害救援ボランティアネットワーク	東京海上日動 あんしん生命保険株式会社	〈ShareHappiness倶楽部〉 特定非営利活動法人 認知症フレンドシップクラブ 認定特定非営利活動法人 難病のこども支援全国ネットワーク 認定特定非営利活動法人 日本クニクラウン協会
第一三共株式会社	〈「思いをつなぐ」次世代応援〉 特定非営利活動法人日本炎症性腸疾患協会 特定非営利活動法人両育わーど 特定非営利活動法人 ALS/MNDサポートセンターさくら会 一般社団法人みんなのレモネードの会 認定特定非営利活動法人スマイルオブキッズ 特定非営利活動法人プロジェクトサンタ 認定特定非営利活動法人ニコちゃんの会 一般社団法人 Kukurū	東京海上日動 火災保険株式会社	〈ShareHappiness倶楽部〉 特定非営利活動法人 わたりグリーンベルトプロジェクト 公益財団法人日本自然保護協会 認定特定非営利活動法人 全国子ども食支援センター・むすびえ 特定非営利活動法人国境なき医師団日本 社会福祉法人全国盲ろう者協会 認定特定非営利活動法人 ウォーターエイドジャパン 認定特定非営利活動法人 日本災害救援ボランティアネットワーク 特定非営利活動法人芸術と遊び創造協会 一般社団法人 JEAN 〈アマモ場保全再生活動〉 特定非営利活動法人海辺つくり研究会 特定非営利活動法人 大阪湾沿岸域環境創造研究センター 一般社団法人須磨里海の会 一般社団法人ふくおか FUN
大和ハウス工業株式会社、 大和リビング株式会社、 大和ハウス賃貸リフォーム株式会社	〈D-ROOM 地域共生基金〉 特定非営利活動法人あきた結いネット 特定非営利活動法人ウィーズ 特定非営利活動法人サンカクシャ 特定非営利活動法人仕事工房ポポロ 認定特定非営利活動法人プラス・エデュケート 特定非営利活動法人キリンこども応援団 認定特定非営利活動法人 女性と子ども支援センター ウィメンズネット・こうべ 認定特定非営利活動法人とりで 特定非営利活動法人子育てネットひまわり 認定特定非営利活動法人心澄	東京ガス株式会社	〈森里海つなぐプロジェクト〉 特定非営利活動法人 森のライフスタイル研究所 認定特定非営利活動法人 JUON NETWORK（樹恩ネットワーク） 認定特定非営利活動法人生態工房 特定非営利活動法人海辺つくり研究会 特定非営利活動法人海の森・山の森事務局 一般社団法人石川県県民ふれあい公社 特定非営利活動法人 能登半島おらっちゃんの里山里海 特定非営利活動法人奥能登日置らい
TOYO TIRE 株式会社	〈TOYO TIRE グループ 環境保護基金〉 特定非営利活動法人 LEAF26 特定非営利活動法人小笠原海洋島研究会 特定非営利活動法人ねっとわーく福島潟 特定非営利活動法人ブランドワーク三島 特定非営利活動法人 ホープ・インターナショナル開発機構 三重県立伊賀白鳳高等学校 公益社団法人大阪自然環境保全協会 特定非営利活動法人 自然体験学習支援センター 特定非営利活動法人産の森学舎 特定非営利活動法人阿蘇花野協会 （任意団体）エコ村伝承館	日本ロレアル株式会社	〈社員による給与天引きプログラム〉 認定特定非営利活動法人 アースウォッチ・ジャパン 特定非営利活動法人ジェンダー平等 Labota 〈能登半島被災地支援〉 特定非営利活動法人全国女性会館協議会
		ブルデンシャル ジブラルタ ファイナンシャル生命	〈SDGs プログラム〉 認定特定非営利活動法人ファミリーハウス 特定非営利活動法人 Learning for All

寄付者（法人）	寄付先団体	寄付者（法人）	寄付先団体
株式会社ファンケル	〈お客様ポイント寄付＆もっと何かできるはず基金〉 社会福祉法人 恩賜財団済生会支部 北海道済生会小樽病院 重症心身障がい児（者）施設みどりの里 社会福祉法人 ヴォーチェまなびのへやバンビーナ南陽 社会福祉法人善光会 とちぎライトセンター 社会福祉法人訪問の家 生活介護事業所 朋 特定非営利活動法人こすもけあ福祉会 特定非営利活動法人六星 社会福祉法人三重県視覚障害者協会 社会福祉法人壺阪寺 聚徳会 社会福祉法人島根ライトハウス 特定非営利活動法人あかねの和 社会福祉法人 聖家族会 みさかえの園あゆみの家		認定特定非営利活動法人アサザ基金 認定特定非営利活動法人自然環境復元協会 特定非営利活動法人農ある暮らしを広める会 特定非営利活動法人きんたろう倶楽部 特定非営利活動法人ぐるったネットワーク大町 特定非営利活動法人Earth Communication 特定非営利活動法人里山倶楽部 特定非営利活動法人 三段峡 - 太田川流域研究会 特定非営利活動法人どんぐりネットワーク 特定非営利活動法人水辺に遊ぶ会 一般社団法人やんぱるビジョン
		寄付者（個人）	寄付先団体
株式会社ブリヂストン	〈ブリヂストンBSmile募金〉 特定非営利活動法人みんなの 一般社団法人日本カーシェアリング協会 認定特定非営利活動法人 3keys 特定非営利活動法人芸術家と子どもたち 一般社団法人 Challenge Active Foundation 特定非営利活動法人フェアスタートサポート （任意団体） ちよちょうまヴァナキュラー実行委員会 特定非営利活動法人浜 - 街交流ネット唐津 （任意団体） あかゆらぬ花会		〈フィナンソロピーバンク〉 特定非営利活動法人お金で学ぶさんすう 〈フィナンソロピーバンク能登半島地震緊急支援基金〉 （任意団体） 町野復興プロジェクト実行委員会 （任意団体） 被災地 NGO 協働センター （任意団体） 学生団体わかものど 〈誕生日寄付〉 一般社団法人若草プロジェクト 社会福祉法人カリヨン子どもセンター 特定非営利活動法人 TEDIC 認定特定非営利活動法人ポケットサポート 特定非営利活動法人ぶるすあは 特定非営利活動法人しぶたね 一般社団法人なかのま
株式会社ゆうちょ銀行	〈ゆうちょ エコ・コミュニケーション〉 特定非営利活動法人いぶり自然学校 特定非営利活動法人裏磐梯エコツーリズム協会		

企業から NPO への物品寄贈「あげます・もらいます」

<https://www.philanthropy.or.jp/agemasu/>

企業から物品などの提供を受け、必要とする NPO へ橋渡しする「あげます・もらいます」事業を行なっています。

2024 年度寄贈企業と物品の例

寄贈企業	物品	寄贈先
株式会社 J-オイルミルズ	自社商品	25 団体
株式会社 JT ビジネスコム	発電機	2 団体
一般社団法人ゼブラ社会貢献支援協会	マーカー、ボールペン、シャープペン	9 団体
株式会社電通	タープテント、防災備蓄品	9 団体
株式会社トランストロン	事務用品、災害対策用備蓄食品	10 団体
日鉄興和不動産株式会社	文具品、ファイル	9 団体
富士通株式会社	防災備蓄品、非常用飲料水、ファイル、毛布	11 団体
三菱地所株式会社	テレホンカード	1 団体
三菱重工業株式会社	保存食セット	1 団体

財務データ

貸借対照表

(2025 年 3 月 31 日現在)

一般会計

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現 金 預 金	84,881,664	83,951,746	929,918
普 通 預 金	83,957,275	83,026,037	931,238
郵 便 貯 金	924,389	925,709	△ 1,320
未 収 金	16,590,208	12,868,589	3,721,619
前 払 費 用	1,522,874	1,577,288	△ 54,414
貯 蔵 品	378,051	226,509	151,542
流動資産合計	103,372,797	98,624,132	4,748,665
2. 固定資産			
(1) 基 本 財 産			
基本財産合計	0	0	0
(2) 特 定 資 産			
役 員 退 任 慰 労 引 当 資 産	27,225,000	27,050,000	175,000
職 員 退 職 給 付 引 当 資 産	10,254,006	7,009,016	3,244,990
受 取 寄 付 金 資 産	70,867,646	115,539,770	△ 44,672,124
受 取 助 成 金 資 産	3,185,960	74,440,103	△ 71,254,143
情 報 シ ス テ ム 再 構 築 積 立 資 金	13,238,460	13,238,460	0
プ ラ ッ ト フ ォ ー ム 化 推 進 事 業 資 金	35,000,000	35,000,000	0
特定資産合計	159,771,072	272,277,349	△ 112,506,277
(3) そ の 他 固 定 資 産			
建 物 附 属 設 備	2	2	0
什 器 備 品	26	26	0
ソ フ ト ウ ェ ア	1,563,868	2,503,471	△ 939,603
電 話 加 入 権	4	4	0
その他固定資産合計	1,563,900	2,503,503	△ 939,603
固定資産合計	161,334,972	274,780,852	△ 113,445,880
資産合計	264,707,769	373,404,984	△ 108,697,215
II 負債の部			
1. 流動負債			
未 払 金	7,794,909	13,829,571	△ 6,034,662
前 受 金	19,235,520	17,024,300	2,211,220
預 り 金	1,207,306	1,579,755	△ 372,449
未 払 消 費 税 等	2,121,400	4,359,900	△ 2,238,500
賞 与 引 当 金	4,414,770	3,522,700	892,070
流動負債合計	34,773,905	40,316,226	△ 5,542,321
2. 固定負債			
役 員 退 任 慰 労 引 当 金	27,225,000	27,050,000	175,000
職 員 退 職 給 付 引 当 金	10,254,006	7,009,016	3,244,990
固定負債合計	37,479,006	34,059,016	3,419,990
負債合計	72,252,911	74,375,242	△ 2,122,331
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産	74,053,606	189,979,873	△ 115,926,267
指定正味財産合計	74,053,606	189,979,873	△ 115,926,267
(うち基本財産への充当額)	(0)	(0)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(74,053,606)	(189,979,873)	(△ 115,926,267)
2. 一般正味財産	118,401,252	109,049,869	9,351,383
(うち基本財産への充当額)	(0)	(0)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(48,238,460)	(48,238,460)	(0)
正味財産合計	192,454,858	299,029,742	△ 106,574,884
負債及び正味財産合計	264,707,769	373,404,984	△ 108,697,215

正味財産増減計算書

(2024年4月1日から2025年3月31日まで)

一般会計

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
受 取 会 費	21,252,000	20,760,000	492,000
正 会 員 受 取 会 費	7,200,000	7,200,000	0
賛 助 会 員 受 取 会 費	14,052,000	13,560,000	492,000
事 業 収 益	133,516,628	128,524,481	4,992,147
公 1. 社 会 貢 献 啓 発 事 業 収 益	252,636	243,745	8,891
公 2. 社 会 貢 献 促 進 事 業 収 益	132,704,082	127,644,506	5,059,576
公 3. 共 生 社 会 創 造 事 業 収 益	559,910	636,230	△ 76,320
受 取 助 成 金	71,232,845	7,504,859	63,727,986
受 取 寄 付 金	226,529,803	191,549,419	34,980,384
雑 収 益	139,794	12,134	127,660
経 常 収 益 計	452,671,070	348,350,893	104,320,177
(2) 経常費用			
事 業 費	426,031,900	323,750,093	102,281,807
公1 社 会 貢 献 啓 発 事 業 費	13,571,363	13,775,672	△ 204,309
公2 社 会 貢 献 促 進 事 業 費	406,999,541	300,074,712	106,924,829
公3 共 生 社 会 創 造 事 業 費	1,936,639	7,685,098	△ 5,748,459
公 益 共 通 事 業 費	3,524,357	2,214,611	1,309,746
管 理 費	17,287,787	15,348,820	1,938,967
経 常 費 用 計	443,319,687	339,098,913	104,220,774
当 期 経 常 増 減 額	9,351,383	9,251,980	99,403
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益	0	0	0
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用	0	0	0
経常外費用計	0	0	0
当 期 経 常 外 増 減 額	0	0	0
当 期 一 般 正 味 財 産 増 減 額	9,351,383	9,251,980	99,403
一 般 正 味 財 産 期 首 残 高	109,049,869	99,797,889	9,251,980
一 般 正 味 財 産 期 末 残 高	118,401,252	109,049,869	9,351,383
II 指定正味財産増減の部			
当期受取助成金	0	80,697,200	△ 80,697,200
当期受取指定寄付金	181,637,549	237,670,273	△ 56,032,724
一般正味財産へ振替	△ 297,563,816	△ 197,085,211	△ 100,478,605
当期指定正味財産増減額	△ 115,926,267	121,282,262	△ 237,208,529
指定正味財産期首残高	189,979,873	68,697,611	121,282,262
指定正味財産期末残高	74,053,606	189,979,873	△ 115,926,267
III 正味財産期末残高	192,454,858	299,029,742	△ 106,574,884

会員数／役員

会員数の推移

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
法人正会員	20	18	19	22	18
法人賛助会員	103	106	114	109	118
法人会員合計	123	124	133	131	136
個人賛助会員	79	78	83	84	93

(数字は、各年度末時点)

役員・顧問

会長	浅野 史郎	元宮城県知事
● 理事長	高橋 陽子	
● 常務理事	小川 千種	
理事	倉光 恭三	特定行政書士／倉光法務事務所代表／元宮城県仙台二華中学高校校長
理事	河野 通和	編集者／京都橘大学客員教授
理事	佐藤 雄二郎	経済ジャーナリスト
理事	清水 肇子	公益財団法人さわやか福祉財団理事長
理事	堂目 卓生	大阪大学総長補佐／社会ソリューションイニシアティブ特任教授
理事	内藤 純一	全国信用協同組合連合会前理事長
理事	長島 剛	多摩大学経営情報学部教授
理事	板東 久美子	日本赤十字社常任理事
理事	光原 ゆき	認定特定非営利活動法人キープ・スマイリング理事長
理事	村木 厚子	社会福祉法人全国社会福祉協議会会長／元厚生労働事務次官
監事	川口 里香	弁護士
監事	浜嶋 哲三	公認会計士
顧問	松岡 紀雄	神奈川大学名誉教授

(●印は常勤、2025年7月1日現在)

2024 年度 ANNUAL REPORT

2025 年 8 月 1 日 発行

発 行：公益社団法人 日本フィランソロピー協会（JPA）

〒100-0004 東京都千代田区大手町 2-2-1 新大手町ビル 244

TEL：03-5205-7580

FAX：03-5205-7585

URL：<https://www.philanthropy.or.jp>

<https://www.facebook.com/philanthropy.or.jp/>

<https://twitter.com/JPNphilanthropy>

お問い合わせはこちらへ



（最寄駅）

● JR「東京駅」丸の内北口より徒歩 5 分

● 地下鉄「大手町駅」B3 出口直結

（東京メトロ 丸ノ内線／千代田線／東西線／半蔵門線、都営地下鉄 三田線）



FSC® 森林認証紙、ノンVOCインキ（石油系溶剤 0%）を使用し、再生可能エネルギー 100% で印刷しています。

